

第50回 全日本聾教育研究大会  
(附属大会)  
開催要項



全日本聾教育研究会  
J.A.E.R.D

全 日 本 聾 教 育 研 究 会  
関 東 地 区 聾 教 育 研 究 会  
全日本聾教育研究大会（附属大会）実行委員会

平成28年10月13日（木）～14日（金）

# 第 50 回 全日本聾教育研究大会（附属大会）開催要項

1. 大会名称 第 50 回全日本聾教育研究大会（附属大会）
2. 大会主題 「聴覚障害教育の専門性のさらなる追究と共有」

## 《主題設定の理由》

全日本聾教育研究大会は、明治 40 年に開催された「第 1 回日本盲啞学校教員会」をその起源とし、その後、組織や名称を変えながら今日まで引き継がれてきた聴覚障害教育に関わる全国規模の研究大会である。昭和 41 年 10 月に高知で全日本聾教育研究会の結成大会が開催されてから今日のような組織や運営形態が整い、翌昭和 42 年には授業研究会と研究分科会を柱とした第 1 回の全国大会が名古屋で開催された。関東地区で 11 回目の開催となる今回の附属大会は第 50 回の節目の大会でもある。

平成 18 年 10 月に第 40 回大会を「APCD：アジア太平洋地域聴覚障害者問題会議」と共催する形をとって関東地区で開催した。この大会はそれまでの日本の聴覚障害教育の総括を行い「専門性」の継承を確認するうえで意義深いものとなったが、その後、聴覚障害教育を取り巻く環境は大きく変化した。平成 19 年、学校教育法の改正により特別支援教育体制への移行が図られたが、今日の「特別支援学校（聴覚障害）・聾学校」（以下、聾学校）には、幼児児童生徒の多様な教育的ニーズに応える姿勢とその実態に応じた確かな教育実践、そして、センター的機能を充実させながら地域の学校を支援していくことが求められるようになった。また、新生児聴覚スクリーニング検査の普及、補聴器の性能の向上、人工内耳装用児の増加等、医学・工学の進歩がきこえに対する意識をさらに高めたが、一方では手話が聴覚障害者にとっての言語であることの認識も定着し、全国の聾学校がそれぞれの教育理念のもとで「確かな学力」と「生きる力」の育成に向けて研鑽を重ねた。ICT の活用、グローバルな人材の育成、社会自立と QOL の向上、キャリア教育等も新たな課題となっている。

この間の聴覚障害教育が辿った道のりは決して平坦なものではなかった。しかし、そうした変化の中でも、聴覚障害教育の現場は時代に合った教育方法を取り入れながら広く教育界に貢献していくための新しい視点を養い、なおかつ、その土台となる「専門性」を変わらない本質として大切に考えてきた。「コミュニケーションの基盤である言語に関する能力の育成」や、新学習指導要領における「言語活動の充実」は、聾学校が継承し続けてきた「専門性」の中核をなす部分にあたる。聴覚障害教育はことばを基軸とする教育方法や知見を教育的資産として多く有しているが、今後もそのさらなる「追究」を推し進めていかななくてはならない。今日、聴覚障害教育が有する「専門性」は聾学校以外の教育現場にも広く浸透させていくことが期待され、実践から得た指導法や教材等の知見を発信していく機会も増えている。それらの「専門性」は常に日々の教育実践の中で磨き続けられ実効性が保たれたものでなくてはならず、その源は依然として聴覚障害教育の現場に求め続けられるものと考えている。教育の多様化が進む中であっても聾学校は一貫した教育の可能性と成果を絶えず発信し続け、その存在を益々確固たるものとしていく必要がある。

本大会では、聴覚障害教育が築き上げてきた「専門性」について授業研究等を通して再度の確認を行い、そのうえで、社会や時代の変化に伴って見えてきた新たな役割や課題についても共に考え、学びを深めたい。そして、各聾学校の特色を互いに理解した上で「共有」し、今後の教育実践につなげていきたい。本大会の主題「聴覚障害教育の専門性のさらなる追究と共有」には、こうした願いがこめられている。

3. 会 期 平成28年(2016年)10月13日(木)・14日(金) 2日間

4. 会 場

【 公開授業・指定授業 】

筑波大学附属聴覚特別支援学校

〒272-8560 千葉県市川市国府台2-2-1

TEL 047-371-4135 FAX 047-373-6316

【 授業研究分科会 】

筑波大学附属聴覚特別支援学校

〒272-8560 千葉県市川市国府台2-2-1

TEL 047-371-4135 FAX 047-373-6316

和洋女子大学

〒272-8533 千葉県市川市国府台2-3-1

TEL 047-371-1473 FAX 047-371-2271 (地域連携センター)

【 研究協議分科会 】

筑波大学附属聴覚特別支援学校

〒272-8560 千葉県市川市国府台2-2-1

TEL 047-371-4135 FAX 047-373-6316

5. 主 催 全日本聾教育研究会 関東地区聾教育研究会

6. 主 管 校 筑波大学附属聴覚特別支援学校

7. 協 力 校 (関東地区加盟校 24校)

千葉県立千葉聾学校 茨城県立水戸聾学校 茨城県立霞ヶ浦聾学校

埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

千葉県立安房特別支援学校館山聾分校 東京都立大塚ろう学校 東京都立葛飾ろう学校

東京都立立川ろう学校 東京都立中央ろう学校 学校法人日本聾話学校

学校法人明晴学園 川崎市立聾学校 横浜市立ろう特別支援学校 横須賀市立ろう学校

神奈川県立平塚ろう学校 栃木県立聾学校 群馬県立聾学校 長野県長野ろう学校

長野県松本ろう学校 山梨県立ろう学校 静岡県立静岡聴覚特別支援学校

静岡県立沼津聴覚特別支援学校 静岡県立浜松聴覚特別支援学校

8. 後 援 文部科学省 千葉県教育委員会 市川市教育委員会 全国聾学校長会 全国聾学校教頭会  
全国特別支援学校長会 関東地区聾学校長会 関東地区聾学校教頭会  
千葉県特別支援学校長会 全国ろう学校PTA連合会 社会福祉法人全国心身障害児福祉財団  
小川再治研究協賛会 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会  
全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会 和洋女子大学 千葉商科大学

## 9. 大会日程及び会場

### (1) 日程

月日	時間	日程	会場
10/12 (水)	13:30～15:00 16:00～17:00	全日本聾教育研究会全理事協議会 大会運営委員会	市川グランドホテル 筑波大学附属聴覚特別支援学校
<b>第1日</b>	9:20～	受付	筑波大学附属聴覚特別支援学校
10/13 (木)	10:00～10:40	公開授業 [幼稚部]	筑波大学附属聴覚特別支援学校
	10:00～10:45	公開授業 [小学部]	
	10:00～10:50	公開授業 [中学部・高等部普通科・高等部専攻科]	
	11:00～11:40	指定授業 [幼稚部]	筑波大学附属聴覚特別支援学校
	11:00～11:45	指定授業 [小学部]	
	11:00～11:50	指定授業 [中学部・高等部普通科・高等部専攻科/寄宿舍公開]	
	11:50～13:00	昼食	筑波大学附属聴覚特別支援学校
	13:00～14:40 (100分)	授業研究分科会 [幼稚部(乳幼)・幼稚部(3・4・5歳児)・ 小学部(低学年)・小学部(高学年)] 授業研究分科会 [中学部・高等部普通科・高等部専攻科・寄宿舍]	和洋女子大学西棟教室 筑波大学附属聴覚特別支援学校
	15:10～15:40 (30分)	開会式	和洋女子大学講堂
	15:50～17:00 (70分)	基調講演 I 筑波大学名誉教授 齋藤佐和先生	和洋女子大学講堂
17:30～18:00 (30分)	研究協議分科会 打ち合わせ・動作確認 (助言者・司会者・記録者・発表者・会場係)	筑波大学附属聴覚特別支援学校	
18:30～20:30	第50回大会記念式典	千葉商科大学	
<b>第2日</b>	8:30～	受付	筑波大学附属聴覚特別支援学校
10/14 (金)	9:00～12:00	研究協議分科会 (午前の部)	筑波大学附属聴覚特別支援学校
	12:00～13:00	昼食	筑波大学附属聴覚特別支援学校
	13:00～15:00	研究協議分科会 (午後の部)	筑波大学附属聴覚特別支援学校
	15:30～16:40 (70分)	基調講演 II 筑波大学名誉教授 四日市章先生	和洋女子大学講堂
	16:40～17:10 (30分)	閉会式	和洋女子大学講堂

## (2)会場

## ① 授業研究分科会 (大会1日目 10月13日 木曜日)

分科会	会場	
幼稚部 (乳幼)	和洋女子大学	西館 講義室 1-2
幼稚部 (3・4・5歳児)	和洋女子大学	西館 講義室 1-1
小学部 (低学年)	和洋女子大学	西館 講義室 2-1
小学部 (高学年)	和洋女子大学	西館 講義室 2-2
中学部	筑波大学附属聴覚特別支援学校	歯科技工科棟 4階会議室
高等部普通科	筑波大学附属聴覚特別支援学校	小学部棟 1階なかよしホール
高等部専攻科	筑波大学附属聴覚特別支援学校	歯科技工科棟 1階研修室
寄宿舎	筑波大学附属聴覚特別支援学校	寄宿舎 食堂

## ② 研究協議分科会 (大会2日目 10月14日 金曜日) ※すべての分科会は筑波大学附属聴覚特別支援学校で行う

	分科会	会場	
1	早期教育Ⅰ (乳幼児)	幼稚部棟 1階	遊戯室
2	早期教育Ⅱ (幼稚部)	幼稚部棟 1階	ホール
3	3-1 学力と教科教育Ⅰ (文系・小学部)	小学部棟 1階	なかよしホール
	3-2 学力と教科教育Ⅰ (文系・中学部・高等部)	高等部棟 3階	多目的スペース
4	学力と教科教育Ⅱ (理系)	高等部棟 4階	総合実習室
5	学力と教科教育Ⅲ (実技系)	歯科技工科棟 1階	研修室
6	寄宿舎教育	寄宿舎共用棟	食堂
7	自立活動Ⅰ (コミュニケーション、障害認識)	歯科技工科棟 4階	会議室
8	自立活動Ⅱ (聴覚活用・補聴機器、「発音・発語」学習)	小学部棟 3階	ワークスペース
9	言語発達、言語学習	中学部棟 2階	2階教室
10	健康教育、心の教育	高等部棟 1階	多目的実習室
11	関係諸機関との連携、センター的機能	中学部棟 3階	3階教室
12	キャリア教育、卒業後の支援	高等部棟 4階	絵画実習室
13	重複障害教育、特別な配慮を要する教育	中学部棟 3階	多目的室
14	国際教育・国際交流	高等部棟 2階	1-3 教室

## ③ 全体会

分科会	会場
開会式	和洋女子大学講堂
基調講演Ⅰ	和洋女子大学講堂
基調講演Ⅱ	和洋女子大学講堂
閉会式	和洋女子大学講堂

## 10. 基調講演

### ・基調講演Ⅰ

講師： 齋藤 佐和 氏 (筑波大学名誉教授)

演題：「聾教育50年の変化と培われた専門性 ～言語指導法を中心に～」

#### — 齋藤 佐和 氏のプロフィール —

1965年東京大学教育学部卒業後、川崎市立聾学校幼稚部に勤務。1967年よりフランス政府給費留学生として、ストラスブール大学、パリ大学大学院に学ぶ。1970年～2005年東京教育大学、筑波大学に勤務、筑波大学附属聾学校長、特別支援教育研究センター長を歴任。この間、附属聾学校と協力して、共同研究や文部科学省特殊教育内地留学生の現職教育に従事。2006年～2014年まで目白大学保健医療学部言語聴覚学科教授として言語聴覚士養成に携わり、大学院リハビリテーション学研究科長を兼務。筑波大学名誉教授。学術博士（パリ第5大学）。

著書は『聴覚障害児童の言語活動』『聴覚障害の心理』『特別支援教育の基礎理論』など多数。

### ・基調講演Ⅱ

講師： 四日市 章 氏 (筑波大学名誉教授)

演題：「聴覚障害教育の専門性と今後への期待」

#### — 四日市 章 氏のプロフィール —

東京学芸大学（特殊教育教員養成課程聾教育専攻）卒業後、東京教育大学大学院（教育学研究科特殊教育学専攻博士課程）中退。1979年筑波大学附属聾学校に赴任し、中学部で数学の指導にあたる。1990年から筑波大学講師、2002年から教授。2006年～2010年まで筑波大学附属聴覚特別支援学校の校長を兼務。2012年～2014年まで筑波大学特別支援教育研究センター長を兼務。筑波大学名誉教授。博士（心身障害学）。

著書・訳書は『リテラシーと聴覚障害』『障害科学の展開』『デフ・スタディーズ ろう者の研究・言語教育』など多数。

## 11. 設定分科会

### (1) 授業研究分科会

分科会	研究テーマ
幼稚部（乳幼）	「話し合い活動」における指導の意図に関する研究 ～「話題の関連図」と「模擬授業」の作成を通して～
幼稚部（3・4・5歳児）	
小学部（低学年）	確かな力をつける教科指導を目指して
小学部（高学年）	
中学部	思考力の向上を目指した実践
高等部普通科	各教科において生徒一人一人が主体的・探求的に関わる授業の研究
高等部専攻科	確かな知識を身につけるための指導方法の研究
寄宿舎	卒業後の社会自立を見ずえた取り組みと働きかけ

## (2) 指定授業一覧

## ① 幼稚部

学年	学級	活 動	授業者
乳幼1歳児グループ		遊び	手塚 清
幼1年3歳児	りんご組	朝の活動	杉山 砂寿
幼2年4歳児	さくら組	朝の活動	桑原 美和子
幼3年5歳児	つ き組	話し合い活動	林 徳子

## ② 小学部

学年	学級	教科	題 材	授業者
3年(低学年)	2組	国語	もうどう犬の訓練	照井 純子
5年(高学年)	1組	国語	注文の多い料理店	柴田 はるか

## ③ 中学部

学年	学級	教科	題 材	授業者
1年	1組	国語	少年の日の思い出	坂口 嘉菜
2年	2組	技術・家庭	調理と食文化	有友 愛子

\*授業研究会1には長南浩人先生を座長としてお招きしております。

## ④ 高等部普通科

学年	学習グループ	教科	題 材	授業者
2年	ハ	日本史B	江戸時代の北前船と昆布ロード	芳之内 修
3年	イ	物理	波動	長島 素子

## ⑤ 高等部専攻科

科	学年	科目	題 材	授業者
造形芸術科	1年	美術教養I	「故宮博物院事前学習」	青柳 泰生
歯科技工科	3年	部分床義歯技工学実習	「金属床義歯の製作」 ～人工歯排列～	松本 愛 福島 恵美子

## (3) 研究協議分科会 (発表時間、発表順についての詳細は13頁から21頁を参照)

分科会名		研究主題(分科会のテーマ)	助言者
		分科会の概要	運営責任校
1	早期教育Ⅰ (乳幼児)	聴覚に障害のある乳幼児の心身の発達と保護者との信頼関係の形成についての研究	信州大学 教職支援センター 教授 庄司 和史 氏
		新生児聴覚スクリーニング検査の普及等により、早期教育がより重要になっていることから、乳幼児と保護者の支援に必要な評価の観点と、支援の内容及び方法について考える。	茨城県立水戸聾学校
2	早期教育Ⅱ (幼稚部)	信頼関係にもとづいた幼児のコミュニケーションや言語発達についての研究	筑波大学 附属学校教育局次長 教授 松本 末男 氏
		幼児のコミュニケーションや言語発達を促すために必要な知見や指導法について、子供にとって必要な様々な視点から考える。	横浜市立ろう特別支援学校

3	3-1 学力と教科教育Ⅰ (文系・小学部)	「確かな学力」を身につけさせるための文系教科指導についての研究	上越教育大学 教授 我妻 敏博 氏
		国語科、社会科、外国語等における基礎的・基本的な学力を培うための指導方法や授業改善について考える。	東京都立大塚ろう学校
	3-2 学力と教科教育Ⅰ (文系・中学部・高等部)	「確かな学力」を身につけさせるための文系教科指導についての研究	筑波技術大学 教授 長南 浩人 氏
		国語科、社会科、外国語等における基礎的・基本的な学力を培うための指導方法や授業改善について考える。	静岡県立 沼津聴覚特別支援学校
4	学力と教科教育Ⅱ (理系)	「確かな学力」を身につけさせるための理系教科指導についての研究	福島大学 教授 森本 明 氏
		科学的・論理的な見方や考え方を培う数学や理科を中心とした実践や指導法について考える。	東京都立中央ろう学校
5	学力と教科教育Ⅲ (実技系)	「確かな学力」を身につけさせるための実技系教科指導についての研究	国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 藤本 裕人 氏
		「生きる力」や社会的自立の基盤となる実技系教科を中心とした実践や指導法について考える。	埼玉県立特別支援学校 坂戸ろう学園
6	寄宿舎教育	集団生活を通して、一人一人の生きる力を育むための指導・支援についての研究	大阪教育大学 教授 井坂 行男 氏
		毎日の生活の様々な場面に適応する力を身につけ、自立心を育む場である寄宿舎の役割について考える。	神奈川県立平塚ろう学校
7	自立活動Ⅰ (コミュニケーション、 障害認識)	コミュニケーションと障害認識の支援や指導の在り方についての研究	金沢大学 教授 武居 渡 氏
		一人一人が社会参加や社会的自立をしていく上での基盤となるコミュニケーションと障害認識の支援や指導の在り方について考える。	埼玉県立特別支援学校 大宮ろう学園
8	自立活動Ⅱ (聴覚活用・補聴機器、 「発音・発語」学習)	聴覚の活用や「発音・発語」学習による幼児児童生徒の心身の発達や日本語の習得についての研究	愛媛大学 教授 立入 哉 氏 筑波大学附属聴覚特別支援学校 前主幹教諭 板橋 安人 氏
		医療・補聴技術の進歩や幼児児童生徒の実態の多様性に対応した聴覚学習、「発音・発語」学習等の在り方について考える。	学校法人 日本聾話学校
9	言語発達、言語学習	幼児児童生徒の言語発達と言語学習についての研究	東京学芸大学 教授 澤 隆史 氏
		言語発達と言語学習についての研究を通して、一人一人の生きる力を育む言語活動の在り方を考える。	川崎市立聾学校



10	健康教育、心の教育	幼児児童生徒の心身の健康の保持増進と豊かな心を育むための教育についての研究	筑波技術大学 教授 佐藤 正幸 氏
		様々な社会環境において、幼児児童生徒が自ら心身ともに健康で心豊かに生活できる力を育てるための教育について考える。	栃木県立聾学校
11	関係諸機関との連携、センター的機能	関係諸機関との連携による聴覚障害教育の充実と地域の学校等への支援についての研究	国立特別支援教育総合研究所 インクルーシブ教育システム 推進センター長 上席総括研究員 原田 公人 氏
		地域で学ぶ聴覚障害児がより充実した支援や教育を受けるために必要な関係諸機関との連携やセンター的機能について考える。	静岡県立静岡聴覚特別支援学校 山梨県立ろう学校
12	キャリア教育、卒業後の支援	早期の教育から卒業後の支援までを見据えたキャリア教育についての研究	筑波技術大学 教授 石原 保志 氏
		キャリア教育の推進がますます重要になっているなかで、聾学校におけるキャリア教育の在り方について考える。	東京都立葛飾ろう学校
13	重複障害教育、特別な配慮を要する教育	一人一人の幼児児童生徒の障害の状態やニーズに応じた支援や指導についての研究	東京成徳大学 教授 中山 哲志 氏
		幼児児童生徒の障害が重度重複化・多様化しているなかで、一人一人の障害の状態等に応じた教育と保護者支援について考える。	東京都立立川ろう学校
14	国際教育・国際交流	国際教育や国際交流による幅広いものの見方や考え方の育成についての研究	筑波技術大学 元学長 大沼 直紀 氏
		グローバル化が進展している社会において、主体的に参加し、活躍できる人材の育成について考える。	群馬県立聾学校

※情報保障について

全体会（開閉会式、基調講演Ⅰ・Ⅱ）では手話通訳、字幕提示システムの配置の他、デジタル集団補聴援助システムを配置します。

授業研究分科会と研究協議分科会では、支援を必要とする参加者がいる場合に情報保障を行います。

なお、要約筆記希望者の方が1名の分科会では手書き要約筆記で、2名以上の分科会ではPC要約筆記を行います。

12. 開会式次第

- (1) 挨拶 全日本聾教育研究会会長  
附属大会実行委員長
- (2) 来賓挨拶 文部科学省  
千葉県教育委員会
- (3) 来賓紹介 関東地区聾教育研究会会長
- (4) 諸連絡 大会事務局

13. 閉会式次第

- 挨拶 全日本聾教育研究会会長  
附属大会実行委員長
- 秋田大会実行委員長

14. 参加者数（平成28年8月31日現在）

(1) 授業研究分科会（参加者数は主管校を除く）

分科会	参加者数
幼稚部（乳幼）	21
幼稚部（3・4・5歳児）	97
小学部（低学年）	78
小学部（高学年）	45
中学部	77
高等部普通科	66
高等部専攻科	11
寄宿舎	30
計	425

(2) 研究協議分科会（参加者数は主管校を除く）

	分科会	参加者数	研究発表本数
1	早期教育Ⅰ（乳幼児）	32	6
2	早期教育Ⅱ（幼稚部）	56	14
3	3-1 学力と教科教育Ⅰ（文系・小学部）	47	8
	3-2 学力と教科教育Ⅰ（文系・中学部・高等部）	34	5
4	学力と教科教育Ⅱ（理系）	28	11
5	学力と教科教育Ⅲ（実技系）	19	5
6	寄宿舎教育	31	7
7	自立活動Ⅰ（コミュニケーション、障害認識）	59	7
8	自立活動Ⅱ（聴覚活用・補聴機器、「発音・発語」学習）	26	7
9	言語発達、言語学習	33	9
10	健康教育、心の教育	8	3
11	関係諸機関との連携、センター的機能	29	9
12	キャリア教育、卒業後の支援	19	5
13	重複障害教育、特別な配慮を要する教育	26	5
14	国際教育・国際交流	5	5
	視察・その他	37	
	計	489	106

(3) ブロック集計 (参加者数は主管校を除く)

	地 区 (地区研究会名称)	参 加 者 数
1	北海道 (北海道聴覚障害教育研究会)	1 2
2	東 北 (東北聾教育研究会)	4 6
3	関 東 (関東地区聾教育研究会)	2 6 0
4	北 陸 (北陸地区聾教育研究会)	3 2
5	東 海 (東海地区聾教育研究会)	2 1
6	近 畿 (近畿聾教育研究会)	3 7
7	中 国 (中国地区ろう教育研究会)	2 4
8	四 国 (四国地区聾教育研究会)	1 2
9	九 州 (九州聴覚障害教育研究会)	4 6
10	本部取り扱い	3
11	学 生	4 2
12	会員外・大学・その他	2 0
	計	5 5 5

15. 気象警報発令時における対応について

- (1) 気象警報が発令された場合も、原則として大会を実施いたします。
- (2) 気象警報が発令され臨時休校となった場合は、幼児児童生徒は登校しません。それにより公開授業は中止となりますが、指定授業につきましては、事前に撮影した授業ビデオをご覧ください。
- (3) 警報等の情報につきましては、筑波大学附属聴覚特別支援学校HPをご覧ください。

16. 大会事務局及び連絡先

第 50 回全日本聾教育研究大会 (附属大会) 事務局

〒272-8560 千葉県市川市国府台 2-2-1 (筑波大学附属聴覚特別支援学校)

TEL 047-371-4314 FAX 047-372-6908

E-mail hashimoto.tokihir.ka@un.tsukuba.ac.jp (事務局専用)

大会実行委員長 学 校 長 原 島 恒 夫

大会事務局長 主幹教諭 橋 本 時 浩

## 【全日本聾教育研究会本部事務局からのお知らせ】

下記記念式典につきまして、たくさんのお申し込みをありがとうございました。  
当日のご参加を心よりお待ちしております。

全国の聴覚特別支援学校・聾学校校長 殿

全日本聾教育研究会会員 各位

### 全日本聾教育研究会50周年記念式典について

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

日頃より、全日本聾教育研究会の活動にご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、全日本聾教育研究会も来年度設立50周年を迎えることとなりました。つきましては、  
下記のとおり記念式典を開催致しますので、ご多忙の折、誠に恐縮に存じますが、各学校から  
ご臨席を心よりお願い申し上げます。

#### 記

- 1 目的 ・第1回大会から現在までの大会を振り返り、全日本聾教育研究会設立の理念を確認し、今後の展望を考える。  
・聴覚障害教育の発展に向け、全国の聴覚特別支援学校（聾学校）の連帯感を深める。
- 2 日時 平成28年10月13日（木）18時30分から （20時30分 終了予定）
- 3 場所 千葉商科大学本館7階会議室  
千葉県市川市国府台1-3-1  
開会式会場（和洋女子大学）より、徒歩約3分  
筑波大学附属聴覚特別支援学校より、徒歩5分
- 4 会費 お一人様 6,000円
- 5 その他 ・全日本聾教育研究大会（附属大会）参加申し込みの際に、本式典参加の申し込みを受け付けます。なお、各校におきましては校長先生を含め、2名以上の参加をお願いしております。  
・会費は、大会参加費と併わせてお振り込みください。  
・不明な点は、以下担当者までお問い合わせください。



〒272-8560

千葉県市川市国府台2-2-1

TEL047-371-4422（教務 山本）

mail: yamamoto.akira.gn@un.tsukuba.ac.jp

筑波大学附属聴覚特別支援学校内

全日本聾教育研究会50周年記念式典担当

山本 晃／手塚 清／福地 陽

## 〔生徒作品展示・作品上映・機器展示・書籍販売・デモンストレーションのご案内〕

体育館では下記の作品展示・上映・機器展示・書籍販売・デモンストレーションを行っています。どうぞご利用ください。

### ◆[展示] 全国聾学校絵画展

平成 28 年度 第 21 回全国聾学校絵画展最優秀賞、優秀賞作品

### ◆[上映] 全国聾学校合奏コンクール

平成 27 年度 第 27 回全国聾学校合奏コンクール入賞作品

### ◆[機器展示／書籍販売／デモンストレーション]

リオン株式会社

フォナックジャパン株式会社

オートメット（オーティコン）株式会社

シバントス株式会社

ヤマハ株式会社

ダイアテックカンパニー

メドエルジャパン株式会社

NTT ソフトウェア株式会社

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

テクノブロード株式会社

NPO 法人 メディア・アクセス・サポートセンター

公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会

株式会社ジアース教育新社

株式会社明石書店

学校法人江副学園 新宿日本語学校

はつおんビンゴ

筑波大学附属聴覚特別支援学校中学部

※1 体育館は参加されるみなさまの休憩場所・昼食場所です。

※2 昼食（弁当、お茶）を申し込まれた方は体育館で配付します。

※3 校内に飲料の自動販売機はございません。来校する際にご用意ください。